七宗町立七宗中学校　学校だより
2026.9.30発行

しゃくなげ

学校の教育目標　志をもち 仲間とともに創りだす生徒



ピンチはチャンス！　～取組の質を高める～

校長 福井敏彦

9月上旬の豪雨にあたり、保護者の皆様には引き渡しや臨時休校・金山経由でのバス通学でご理解・ご協力いただき、誠にありがとうございました。14日（月）朝、臨時集会を行い、次の4つを確かめました。

災害はいつでもどこでも起こり得ること

まず、今回命を落とす人が一人もいなかったことは幸いでした。私自身、倒木後間もない時刻にその場所におり、もう少し早い時刻に通過していたなら巻き込まれていたかもしれなかったと思うと恐ろしく感じました。災害はいつでもどこでも起こり得ることを実感しました。

集団の学びを止めない縁の下の努力

災害復旧に携わった関係者の皆さん、3日間も臨時休校にできないと木曜日急きょ金山迂回臨時バスを計画した町教育委員会はじめバス運行関係者の皆さん、金曜日が有意義な活動となるよう計画し準備した職員。皆さん、生徒の顔を思い浮かべながらの作業です。

毎日当たり前に安全に登下校し、充実した学校生活を過ごすことができているのは、多くの関係者の日頃の努力があってこそです。非常時の動きをみて、改めて実感しました。

臨時休校中も、自分が今必要な学習をしていた仲間がいたこと

特に3年生は期末テストをやり直し、力をつけた生徒が多かったと聞きました。今、自分が必要な学びを考え、精いっぱい取り組むことができた値うちある姿です。こうした姿勢は、自身の夢・志に向かってたくましく努力を積み重ねる姿につながります。

また休校中、小学生の子の中にも、自分にできる学習をしていた子がいたと七宗小社本校長先生から聞きました。「自ら学ぶ力」を身に付けている、手本とすべき仲間・先輩・後輩がいることは素晴らしいこと。一層、自ら学ぶ集団に高まる可能性を感じました。

ピンチはチャンス

思い返せば修学旅行1日目、3年生は台風の進路を気にしながら臨機応変に行動しました。「人任せにせず自分事として聞いて動く」姿があったからこそ、実りの多い修学旅行となりました。通常の計画以上に主体性が高まったとさえ感じます。まさに「ピンチはチャンス」でした。

今回の非常時（臨時休校、1時間以上のバス通学）は予定していた活動ができなかった「ピンチ」です。その分、これからの集中した取組、挽回に期待します。　　・・・といった内容です。

あれから2週間余りたちました。執行部の皆さんは4本柱を主とした日常の高まりを語り、全校で実践しています。結団式でも「事前取組こそ大切」と日常の充実を訴えました。

今週から始まった団結祭練習ですが、月曜からずっと雨。計画した競技練習はできていません。しかしこの逆境（ピンチ）も、1回の練習をより集中して取り組むチャンスにできると期待します。